感染症科・感染制御科

〇感染症科・感染制御科の概要

１．感染症科・感染制御科の特色

感染症は全身のあらゆる臓器を病巣とし、疾患の原因となる微生物が存在する。また社会的に大きな問題となっている院内感染はすべての診療科の患者に発生する可能性があり、どのような専門医になったとしても基本的な知識を習得しておくことが不可欠である。さらに高度先進医療を行う施設から診療所に至るまでいかなる医療機関でも院内感染は発生するため、臨床医である限りはその適切な対応が要求される。また近年では COVID-19 の流行に伴い初期対応や診断、治療、感染対策などを理解することは非常に重要な課題である。感染症科・感染制御科はわが国においてそのような系統的な教育を行っている数少ない診療科であり、すべての臨床医に必要不可欠な研修を提供する。

２．診療実績（2023 年度）

1)　外来

外来患者数	約 3,000-4,000 件
新患数	約 1,000 件
再診数	約 2,000 件
HIV	約 100 件

2) 抗菌薬適正使用推進チーム活動

ラウンド回数	200 回
症例数	約 2,500 件
血培	約 700-900 件
耐性菌	約 300-350 件
TDM	約 250-300 件
長期	約 200-300 件
フィードバック	約 1,000 件

３．診療スタッフ

前崎　繁文（教授）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法
樽本　憲人（准教授）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法
戸叶　美枝子（講師）：院内感染制御の実際、感染症の診断と治療、抗菌化学療法

４．臨床研修プログラムの特色

「新医師臨床研修制度」に掲げられた研修目標のほかに、各診療科目で経験できる感染症の診療に関する基本的事項を習得することが可能である。特に、近年の耐性菌対策としても重要視されている「抗菌薬適正使用推進チーム」Antimicrobial Stewardship Team(AST)として、全診療科における感染症診療のサポートに注力している。将来は内科専門医、総合内科専門医、感染症専門医、Infection Control Doctor（ICD）などを目指す研修医にとっては基礎となる研修プログラムであるが、将来どの診療科を専攻するにしても役に立つ研修内容である。

５．指導責任者　前崎　繁文（教授）

６．感染症科・感染制御科の週間予定スケジュール

	午前	午後
月曜日	感染症外来	AST カンファレンス
火曜日	感染症外来・ICT ラウンド	感染対策カンファレンス・AST カンファレンス
水曜日	国際医療センター	国際医療センター
木曜日	細菌検査室実習	細菌検査室実習
金曜日	感染症外来	AST カンファレンス

〇感染症科・感染制御科の学習目標

一般目標（GIO）

臨床医としての感染症の診断および治療に関する基本的な事項を習得するとともに、感染制御の理論と実践を行うことができる。

行動目標（SBOs）

1）感染症の検査法についての理解
2）感染症の検査の介助ができる
3）感染症の検査結果を正しく判定できる
4）感染症の診断(特に院内感染が問題になる感染症)についての実践ができる
　（1）薬剤耐性菌についての理解
　（2）その他の病原微生物についての理解
　（3）微生物の進入門戸についての理解
5）感染症の治療を行える
　（1）薬剤耐性菌感染症の治療についての理解
　（2）その他の病原微生物の治療についての理解
　（3）適切な抗菌薬の使用方法についての理解
　（4）隔離の適応についての理解
6）院内感染制御の理論と実践ができる

研修方略（LS：Learning Strategies）

基本的に午前は感染症外来および院内の感染症症例、特に血液培養陽性症例を中心に情報収集を担当し、午後は AST カンファレンスにて討論し、全診療科における感染症診療のサポートを行う。

感染症外来では結核、HIV 感染症や梅毒をはじめとした性感染症、その他様々な感染症を経験する。また、院内コンサルトを通して各種感染症患者の診断と治療を行うが、特に耐性菌感染症や難治性感染症に対するコンサルテーションでは考え方を学習してもらう。

微生物検査手技は検査部の技師とともにグラム染色を行えるようになるのと同時に、塗抹標本を観察し、菌種を類推することの参考になる。AST カンファレンスとシームレスに連動し、よりエンピリック治療を適切に行うことができるようになる。また、各種耐性菌や各種抗菌薬の特徴について理解し、感染症診療に対する基本的な考え方を習得する。

さらに医療関連感染対策を実践するために、火曜の午前は感染制御を目的とした病棟ラウンドを感染管理認定看護師とともに行い、各種カンファランスにも出席してもらう。

感染に関連する英語文献などを読み、感染症に関する理解を深めてもらう。

研修評価法（EV：Evaluation）

研修終了時に研修担当指導医による評価を受ける。EPOC2 評価項目の他、各行動目標の達成度につき、本人および評価者と確認する。

到達目標と評価表

【評価 A：可　B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 上級医師の指導の下で、各種感染症の診断と治療ができる	(　　)	(　　)
2. 指導医に適切にコンサルテーションできる	(　　)	(　　)
3. 症例提示しチーム医療のメンバーと討論ができる	(　　)	(　　)
4. 耐性菌感染症や難治性感染症に対する考え方が理解できる	(　　)	(　　)
5. HIV 感染症患者の診療計画を作成することができる	(　　)	(　　)
6. グラム染色などの検査を適切に行うことができる	(　　)	(　　)
7. COVID-19 患者の重症度を把握することができる	(　　)	(　　)

研修に関する問合せ先

担当者　戸叶　美枝子　mtokano@saitama-med.ac.jp
TEL: 049-276-2032 /PHS：8271